物理チャレンジ・オリンピック日本委員会　プレスリリース

平成 20 年 4 月 16 日

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
委員長　北　原　和　夫

第39回国際物理オリンピック（IPhO2008）ベトナム大会　日本代表選手決定について

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会（委員長：北原和夫（国際基督教大学））は、第 39 回国際物理オリンピック（期間：2008 年 7 月 20～29 日　開催国／都市：ベトナム／ハノイ）に派遣する日本代表 5 名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967 年にポーランドのワルシャワで第 1 回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。

わが国は昨 2006 年、第 37 回国際物理オリンピック IPhO2006 シンガポール大会（86 の国と地域が参加）に初めて日本代表を派遣した。昨年の第 38 回国際物理オリンピック IPhO2007 イラン大会では、金メダル 2、銀メダル 2、銅メダル 1 という好成績を収めることができた。

今回日本代表となった 5 名は、昨年夏に行なわれた「第 3 回全国物理コンテスト『物理チャレンジ 2007』」において優秀な成績を収めたことにより、424 名の参加者の中から日本代表候補者として選抜され、昨秋よりインターネット Web を利用した「理論問題通信添削」、大学等を会場に実施された「実験実習指導」、冬休みに行われた「実験実習合宿」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

5 名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、2008 年 7 月の「第 39 回国際物理オリンピック（IPhO2008）ベトナム大会」派遣に備える。

なお、2009 年メキシコで開催される第 40 回大会を目指す国内コンテスト「物理チャレンジ 2008」は現在参加者募集中。締め切りは 4 月 20 日（当日消印有効）。
詳しくは、ホームページ　http://www.phys-challenge.jp

第 39 回国際物理オリンピック「IPhO2008」日本代表選手

氏名	フリガナ	性別	学校名(所在地)	学年
赤堀　将太郎	アカホリ ショウタロウ	男	洛南高等学校（京都府）	3年
松久　勝彦	マツヒサ カツヒコ	男	東海高等学校（愛知県）	3年
松元　叡一	マツモト エイイチ	男	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）	3年
村下　湧音	ムラシタ ユウト	男	灘高等学校（兵庫県）	3年
吉田　周平	ヨシダ シュウヘイ	男	広島大学附属福山高等学校（広島県）	3年

※　以上 5 名　氏名 50 音順

＜この件についての問い合わせ先＞
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局
東京都千代田区北の丸公園２番１号
財団法人日本科学技術振興財団内
TEL 03-3212-8518　FAX 03-3212-7790
担当　：　谷本、鈴木
E-Mail：　physchal@jsf.or.jp
URL:　http://www.phys-challenge.jp

参考

日本代表選手のコメント

赤堀　将太郎：
日本代表として国際大会で金メダルがとれるように精一杯頑張りたいと思います。

松久　勝彦：
来る所まで来てしまいました。行ける所まで行くしかありません。
代表として恥じぬよう全力でがんばります。

松元　叡一：
日本代表に選ばれてとても嬉しいです。金メダルを目指して勉強していきたいと思います。
ベトナムでの国際交流なども楽しみにしています。

村下　湧音：
今までの集大成として悔いの残らない大会にしたい。
※）村下湧音は、第 37 回大会、第 38 回大会に続き 3 年連続 3 回目の日本代表。

吉田　周平：
日本代表に選ばれて大変うれしいです。大会当日に全力を尽くせるよう、これからも努力を続けていきたいと思います。また、世界の物理好きとの交流を楽しみにしています。

「国際物理オリンピック」について

国際物理オリンピックは、1967 年にポーランドのワルシャワで第 1 回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学･技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20 歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大 5 名の代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10 日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ 5 時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、ほかの国々からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国／都市は、2004 年韓国／浦項、2005 年スペイン／サラマンカ、2006 年シンガポール、2007 年イラン／イスファハン。参加国数は増加傾向にあり、イラン大会には、69 カ国・地域から 327 名の代表が参加した。今年はベトナム／ハノイ、2009 年はメキシコ／メリダで開催される。

我が国は 2006 年より日本代表を派遣しており、2 回目の昨年は、初めての金メダルを 2 名が獲得したうえ、銀メダル 2 名、銅メダル 1 名と全員がメダルを手にするという好成績をおさめることができた。

●「第 37 回国際物理オリンピック（IPhO2006)」結果概要　※日本初参加
会　　期：　2006 年 7 月 8 日～7 月 17 日　10 日間
開 催 国：　シンガポール共和国
結　　果：　銀メダル 1 名、銅メダル 3 名、入賞 1 名
※）銀メダル受賞者は、初参加国中トップ成績として国際大会会長賞も受賞

●「第 38 回国際物理オリンピック（IPhO2007)」結果概要
会　　期：　2007 年 7 月 13 日～7 月 22 日　10 日間
開 催 国：　イラン・イスラム共和国
結　　果：　金メダル 2 名、銀メダル 2 名、銅メダル 1 名

国際科学オリンピックをめぐる動き

平成 19 年 3 月、江崎玲於奈（横浜薬科大学学長、財団法人茨城県科学技術振興財団理事長）氏を会長とする「日本科学オリンピック推進委員会（http://www.jsoc-info.jp/）」が発足し、国際科学オリンピックへの積極的な参加を応援し、将来を担う若者がもつ才能の伸長を支援するとともに、併せて科学技術創造立国たる我が国の理科教育の活性化を図る活動がはじまっている。

なお、平成 21 年 7 月に「第 20 回国際生物学オリンピック」を茨城県つくば市で、平成 22 年 7 月に「第 42 回国際化学オリンピック」を東京都でそれぞれ開催する計画が進んでおり、2 年連続して日本を舞台とした 2 つの国際科学オリンピックが開かれることになる。

日本国内の物理コンテスト「物理チャレンジ」について

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、ふたつの段階から構成されており、はじめの「第 1 チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国一斉の会場試験、実験課題レポートは自宅や学校で課題実験に取り組みそのレポートを郵送で提出する。二段階目の「第 2 チャレンジ」は、第 1 チャレンジにより選抜された 100 名が、夏休みに一堂に会する 3 泊 4 日の合宿形式のコンテスト。理論問題と実験問題についてそれぞれ 5 時間の試験を実施する。ここでは成績上位 6 名に金賞、続く 12 名に銀賞、続く 12 名に銅賞、さらに続く約 20 名に優良賞等を授与する。

第 2 チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピック日本代表候補を 10～15 名程度選出し、5 ヶ月間にわたる通信添削、大学等を会場とした実験実習、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち、最終選考を行い 5 名の日本代表を決定する。

なお、第 2 チャレンジの期間中には合宿形式のメリットを活かして、コンテストばかりでなく第一線研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と実行委員（物理学研究者）との交流を深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した 4 日間となる構成としている。

今年開催の「物理チャレンジ」

第 4 回全国物理コンテスト「物理チャレンジ 2008」

主　　催：　物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
共　　催：　日本物理学会　応用物理学会　日本物理教育学会　日本生物物理学会
　　電気学会　日本機械学会　岡山県　岡山光量子科学研究所　岡山大学
　　茨城県　筑波大学　理化学研究所　日本科学技術振興財団
特別協賛：　科学技術振興機構

現在参加者募集中！　　参加申込み受付期間　　平成 20 年 4 月 1～20 日
参加について詳しくはホームページで案内（http://www.phys-challenge.jp/）

●「 第 1 チャレンジ 」 実験課題レポート　（平成 20 年 6 月 2 日 提出締切）
　　理論問題コンテスト（平成 20 年 6 月 15 日 全国 71 会場で実施）

●「 第 2 チャレンジ 」　※）第 1 チャレンジから選抜された 100 名が参加
会　期：　平成 20 年 8 月 3 日～6 日（3 泊 4 日）
開催地：　岡山県岡山市及び倉敷市ほか
内　容：　理論及び実験問題(各 5 時間)、特別講話、研究施設見学、交流イベントなど
表　彰：　金賞（6 名)、銀賞（12 名)、銅賞（12 名）及び優良賞（約 20 名）など

以上